

宍粟市高齢者福祉計画及び第10期介護保険事業計画基本理念について

1 基本理念の検討について

宍粟市高齢者福祉計画及び第10期介護保険事業計画（以下「第10期計画」という。）を策定するにあたり、基本理念は、「進むべき方向の明示」、「個別施策の根拠」、「価値観の共有」といった計画のコンセプトにあたるものです。

この資料は、基本理念を設定することを念頭に推進委員会で審議いただけるよう作成したものです。

2 第9期計画と第4期宍粟市地域福祉計画の基本理念

（1）第9期計画の基本理念

「地域でつながり、支え合い、誰もが健やかに暮らし続けられるまち」

第9期計画の基本理念は、地域のつながりや支え合いを通じて、高齢者を含む誰もが暮らし続けられるまちを目指す考え方を示しています。

（2）第4期宍粟市地域福祉計画の基本理念は、

「誰一人 おいてかへんで 宍粟のふくし」

第4期宍粟市地域福祉計画（以下「第4期地域福祉計画」という。）の基本理念は、誰一人取り残さないという包摂的な地域づくりの考え方を示しています。

3 第10期計画の基本理念の検討のポイント

第10期計画の基本理念を検討にあたっては、第9期計画の理念が持つ「つながり」、「支え合い」といった視点に加え、第4期地域福祉計画が示す「誰ひとり取り残さない」という考え方、さらに本人本位の支援、認知症施策の推進、住み慣れた地域での暮らしの継続といった視点をどのように理念に反映するかが重要となります。

4 基本理念のたたき台

推進委員会では、地域の現状やデータ、市民アンケートの結果などを踏まえ、「解決すべき本質的な課題は何か」を審議いただくと同時に計画の基本理念についても設定いただきたく、参考資料として、以下のとおりたたき台をお示しいたします。

案1 地域でつながり、支え合い、  
誰もが健やかに暮らし続けられるまち

案1は、第9期計画の基本理念を継承するものです。  
これまでの計画との連続性を最も重視する考え方で、本市がこれまで大切にしてきた地域のつながりや支え合いの視点をそのまま受け継ぐものです。

<良い点>

- ・第9期計画との連続性が最も高い
- ・地域のつながりや支え合いという宍粟市の地域特性をそのまま維持することができる

<検討を要する点>

- ・「認知症施策推進計画」や「地域共生社会の実現に向けた取組の推進」といった第10期計画に求められる内容が、直接読み取りにくい

<第4期地域福祉計画との関係>

- ・地域の中で支え合うという点では整合性がある一方、「誰ひとり おいてけへんで」に込められた包摂的なメッセージがやや弱い

案2 地域でつながり、支え合い、誰もが住み慣れた地域で  
自分らしく健やかに暮らし続けられるまち

第9期計画の基本理念を継承しながら、第10期計画に求められる「認知症施策推進計画」や「地域共生社会の実現に向けた取組の推進」を加えるもので、第9期の考え方を発展的に補強する案です。

<良い点>

- ・第9期計画との継続性を保ちながら、第10期に必要な事項を盛り込むことができる
- ・本人本位の支援、認知症との共生、地域での暮らしの継続といった考え方を表現しやすい
- ・継続性と新たな視点のバランスが取りやすい。

<検討を要する点>

- ・文言がやや長くなる
- ・第9期の発展形としては分かりやすい一方で、地域が人を包み支えるという方向性を強く打ち出す表現ではない

<第4期地域福祉計画との関係>

- ・「誰もが」「住み慣れた地域で」「自分らしく」という要素を含むことから、誰一人取り残さない地域づくりの方向性と比較的整合しやすい

案3 住み慣れた地域がつながり、  
誰もが自分らしく健やかに暮らし続けられるまち

第9期計画の「人と人がつながり、支え合う」というイメージに対し、地域そのものが人を包み込み、地域共生社会の土台として支えるイメージを意識した案です。

<良い点>

- ・地域が人を包み支えるというイメージを比較的明確に示すことができる
- ・「自分らしく」を含むことで、多様な中の個としての共生の考え方を表現しやすい
- ・第4期地域福祉計画の「誰ひとり おいてかへんで」との整合性が保たれる

<検討を要する点>

- ・「住み慣れた地域がつながり」という表現がやや抽象的で、受け止め方に幅が出る可能性がある。
- ・第9期計画の「支え合い」の考え方が示されない

<第4期地域福祉計画との関係>

- ・地域が人を取り残さず受け止めるという考え方が示されており、「誰ひとり おいてかへんで」という基本理念との整合性が高い

案4 住み慣れた地域のつながりの中で、  
誰もが自分らしく健やかに暮らし続けられるまち

案3の考え方を基本として、表現を自然な形に整えた案です。

良い点等は案3と同様になります。

案5 住み慣れた地域でつながり、支え合い、  
誰もが自分らしく健やかに暮らし続けられるまち

第9期計画のキーワードである「つながり」「支え合い」を残しながら、「住み慣れた地域」、「自分らしく」といった第10期計画のキーワードを加える案です。第9期の考え方を踏襲しつつ、発展させる考え方です。

<良い点>

- ・第9期計画との連続性を保ちやすい
- ・支え合いというキーワードを残しながら、個を尊重した考えと住み慣れた地域での暮らしの継続をめざすことが表現されている
- ・継続性と新たな視点のバランスが比較的とれている

<検討を要する点>

- ・案2と同様に文言がやや長い
- ・地域が人を包み支えるという方向性を強く打ち出す案ではない

<第4期地域福祉計画との関係>

- ・誰もが地域で暮らし続けられるという方向では整合するが、「誰ひとり おいてけへんで」の積極的な包摂性を前面に出す案ではない

## 5 たたき案を比較するポイント

各案は、それぞれ重視する部分が異なるため、比較にあたっては次のようなポイントが考えられます。

- ・第9期計画との継続性をどの程度重視するか
- ・第10期計画におけるキーワード（地域共生社会の実現、認知症施策推進計画など）をどの程度明確に示すか
- ・上位計画である第4期地域福祉計画の基本理念との整合性をどの程度とするか
- ・理念としての分かりやすさ、伝わりやすさをどの程度重視するか

## 6 まとめ

第10期計画の基本理念については、これからの推進委員会の中で審議いただきます。

上位計画にあたる第4期宍粟市地域福祉計画の基本理念である「誰一人 おいてかへんで 宍粟のふくし」との整合性を図ることで、宍粟市らしい理念のあり方が整理しやすくなると考えますので、審議の参考資料としてご活用ください。